

調査の概要

[1] 調査の狙い

小学校から中学校へ進学するとき、東京都の小学生は、他の地域の小学生よりも、中学受験志向、すなわち、私立・国立中学校への進学志向が強いとされる。こうした中学受験志向は、児童数の減少ともあいまって、今後増加の傾向がみられよう。この受験志向が、彼等の学校での生活や、学校外での生活にも、大きな影響を与えていくものと思われる。中学受験の実態を子供・親の両者で調査し、その意識と行動の一端を明らかにすることを調査の目的とした。

[2] 調査の内容

- (1) 子供とその親（母親）に調査を実施した。
- (2) どちらの調査も“学習塾”と“受験”を2本の柱とした。
- (3) 子供では、それ以外に、家での様子、学校での様子、価値観などを調査項目に加えた。
- (4) 親（母親）では教育観、自己像、暮らし向きなども調査して、中学受験との関連をさぐった。

[3] 調査実施時期

1988年10月～11月

[4] 調査対象

東京都23区内の公立小学校13校の6年生 873名と、その母親 873名

[5] 調査方法

質問紙によるアンケート調査

[6] その他

アンケート調査以外に、中学受験経験者と、中学受験をさせた母親へのインタビュー調査も行った。その内容は、第Ⅱ部資料として掲載してある。